

まちかど・ズーム IN!

「音遊び」を楽しむ



福岡小3分校交流学習

福岡小学校の3分校（八宮・長峰・不忘分校）の交流学習会が9月12日、八宮分校で開かれました。講師を務めたのは、石や木、竹などを素材に楽器を手作りしている福島県新地町在住の荒利美さん。荒さんは初めに、さまざまな楽器を使い幻想的な音色を披露。続いて竹を使った「トンガトーン」と呼ばれるフィリピンの民族楽器の作り方を子供たちに指導しました。

いつまでもお元気で!

敬老祝い金・記念品贈呈



市内最高齢者の川口さん

- 麻生ミヨ（南町）
（明治34.3.22生まれ、100歳）
- ▶白寿祝い
米澤トラヨ（堂場前）
（明治35.9.26生まれ、98歳）
- 佐藤たかの（福岡深谷）
（明治35.12.10生まれ、98歳）
- 安藤シケ（堂場前）
（明治36.2.18生まれ、98歳）



▲記念品を受け取る米澤さん

敬老の日を前にした9月6日と11日、川井市長がお年寄り宅を訪問し長寿を祝いました。祝福を受けたのは次の5名（敬称略・年齢は9月1日現在）の方で、100歳以上の長寿者に松竹梅敬老祝い金10万円が、また、今年度に99歳になられる方には、白寿のお祝いとして純金盃が贈呈されました。

- ▶松竹梅敬老祝い
川口さと（越河）
（明治33.9.1生まれ、101歳）

みなさんからの素敵な情報を待ってます!

マリンバでふれあう ボランティアミニコンサート



関東を中心に活動している若手音楽家グループ「うたうたげ」のメンバーで、マリンバ奏者の松本律子さんが9月5日、第一・第二幼稚園とケアハウスやまぶきを訪問し、白石子守歌や童謡を披露しました。幼稚園では、園児たちと一緒にマリンバをたたきこまも見られ、生の演奏を通して交流を深めました。9日には「うたうたげ」のコンサートがホワイトキューブで開かれ、心こもった音楽を披露しました。

元気な泳ぎを披露 障害者水中教室



体の不自由な人たちが水の感触を楽しむ障害者水中教室（宮城県障害者社会参加推進センター主催）が9月4、5日の両日、スパッシュランドしるいしで開かれました。参加した市内の主婦など約30人の障害者とその介護者たちは、インストラクターの指導で、50℃プールでの水中歩行、バタ足などの基本から一人で泳ぐ水泳実技に至るまで、元気いっぱいに取り組みました。

第15回みやぎ蔵王高原マラソン



恒例の「みやぎ蔵王高原マラソン大会」が9月15日、野営場を発着点とするコースで行われました。今年は県内をはじめ、遠くは福岡県や広島県などから、小学1年生から81歳までのマラソン愛好者790名が参加。親子ペアなどの3*コースから最長の20*コースまでの4部門を男女別年齢別に分け、日ごろ鍛えた健脚を競いました。



初秋の蔵王山ろくを「力走」

友情はぐくみ10年



海老名市と少年野球で交流

今年で10周年を迎えた白石市と海老名市との少年野球による交流が、8月24日から26日にかけて行われました。これは、両市の少年野球チームが毎年1回ずつお互いに相手を訪れ、ホームステイをしながら交流試合を行っているもので、今回は10周年を記念して女子チームも参加しました。試合は25日に益岡公園野球場で行われ、大平少年野球クラブレインボーの大場祐基くん（白石二小・6年）の選手宣誓を受けてスタート。両市とも選抜された1チーム13人による3チームが試合を行い、対戦結果は白石市の1勝2敗でした。10月6日から8日には、海老名市を会場に交流が行われます。

九月八日に信州新町で農業関係ITの四協議会会長会議が開かれた。全農の大池会長、全国農村情報連絡施設協議会会長山梨県石和町の石原町長、全国有線テレビ協議会会長信州新町の中村町長、全国グリーンントピア協議会の白石市長四人である。

長野県の田中康夫知事と私は脱ダム宣言をめぐって丁々発止やり合っているのので、中村町長がどのような反応を示すのかちょっと心配だった。ところがわざわざ長野駅に迎えるの公用車を出して頂いて、「やあやあ応援団長。こ来県よろこそ。」続けて、「長野県内では市町村長がいろんな反論をしてもマスクミは取り上げてくれない。県外ではあるが市町村長で最も大きく取り



川井市長の
せせらぎトーク

犀川のほとりにて

上げられたのは川井さんですからね、これからもしどしどしやって下さい。」と言う。私もおだてられるとすぐに舞い上がる方だからすっかり気分をよくした。会議では白熱した議論が展開された。ことに情報という大きなくくりの中で農村の介護問題、独居老人問題などが取り上げられたのは今後農村を考える上で大きな要因になることであろう。地理的にいうと千曲川と犀川が善光寺平で合流して

信濃川となる。信州新町は長野市から三十キロ近く犀川沿いにさかのぼった人口六千

ほどの過疎の町である。かつて犀川は松本平と善光寺平の物資輸送の大きな役割を担っていた。しかも新町の少し上流に滝がある。そのために新町は中継地点として大変栄えた町であったようだ。

この町に信州新町美術館がある。栗原信という方が「フランスのどこの町にも美術館があります。日本もぜひそうあってほしい。そこでまずこの町に美術館を作ってみませんか。」と提唱しそれが契機となり、町ぐるみで芸術への愛と理解を育み地域のシンボルとして一九八二年に開館したという。近代日本画壇を代表する画家らの名作を初めとし、彫刻、書版画など千九百点以上の作品を展示している。

また有島生馬記念館がある。有島三兄弟、つまり兄の有島武郎、そして弟の里見弴の二人は文学者、生馬は画家の道を選んだ。有島生馬記念館は鎌倉に明治時代につくられた木造の生馬邸を移築したもので、建物自体が重要文化財クラスである。そこに有島家の系図や家族の写真などの資料及び作

品が陳列されている。信州新町化石博物館には六千点もの化石が所蔵されている。太古の町は海の底であり、貝の化石が多く発見されていること、この博物館が作られた由縁である。なんとこれらの施設の所蔵品は全部作者あるいは町民の寄付によるということである。かつて犀川水運の中心地であったこの町の民度の高さに驚嘆した。

（おまえはどいつだったって？）だって皆さんは車で随分つき、私だけがたった一人で新幹線ですよ、物を持てるはずがないじゃないですか。あのぐらいい知事の批判をしても歓迎されるのだから長野県はさすが日本の教育県と言われてきたことはありますね。